

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第6回西脇市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	平成31年3月22日（金） 午前10時～午前11時45分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階ホール
出席委員の氏名又は人数	11名
欠席委員の氏名又は人数	4名
出席職員の職・氏名又は人数	5名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	1人
議題又は協議事項	1 総合戦略の推進状況 2 地方創生関連交付金 3 その他
会議の記録（概要）	
発言者	<p>○開会</p> <p>○資料の確認</p> <p>○新委員の紹介・あいさつ</p> <p>（以後の進行を加藤会長に依頼）</p> <p>本日は11名の委員に出席いただき、定足数を満たしており、会議が成立していることを報告させていただきます。</p> <p>○まち・ひと・しごと創生会議の運営について 会議資料に基づき、事務局から説明</p> <p>1 総合戦略の推進状況</p>
事務局	
会長	

	<p>○資料 2、3 に基づき、事務局から説明（基本目標 1）</p>
委員	<p>昨年 4 月から神戸新聞社が神戸ファッション美術館の管理運営を行っている。名誉館長としてコシノヒロコ氏に就任いただき、様々な取組を行っている。播州織とも何か連携できることがあるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>娘が二人いるが、西脇高校に進学した娘のほうが地元への愛着が強い傾向がある。将来の U ターンを増やすのであれば、地元愛を高める教育や、市内の高校の魅力を高める取組が必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>S N S を活用した情報発信や、イチゴ農家の育成など、市の様々な取組は評価できる。しかし、データでは依然として転出超過が続いており、厳しい状況である。</p> <p>私自身、都市部から西脇市へ移住した経験があることから、都市部と比較した西脇市の魅力について市内の中学生向けに講演を行ったことがある。すぐに結果が出るものではないが、親世代が西脇市の良さを子どもたちに伝えていくことが大切である。</p>
委員	<p>幼い頃は西脇市が好きではなかったが、子育てをする立場になると、周りの人たちに対する感謝の気持ちが大きくなった。都市部と比較すると、ないものは多いが、「ないなら自分たちで作ろう」というポジティブなメッセージを伝えられるまちになってほしい。若い世代が生き生きと暮らせるようになればと思う。</p>
会長	<p>島根県の海士町では「ないものはない」というフレーズを掲げ、地方創生の取組を行っている。高校の生徒数が増えており、全国的にも成功事例のひとつとなっている。</p>
委員	<p>一度地元を離れることで、地元の良さが分かる人も一定数いる。幼い頃から地元の良さを知るための教育を受けることで、戻ってくる人が増えるのではないか。また、戻ってこなくても、地元へ愛着を持ち、何らかの形でつながりを持ち続けてくれると思う。地域創生の取組の中でも「関係人口」という考え方がある。</p>

委員	<p>移住相談を受ける中で、相談者が実際に移住された方の声を聞くことができるような機会はあるのか。</p>
事務局	<p>市ホームページ等で、実際に移住された方々のインタビュー動画や記事を公開しているほか、移住相談会などで移住者に出席いただき、一緒に相談を受けたりすることもある。今後も実際の移住者の声を移住希望者に届ける取組を続けていきたいと考えている。</p>
委員	<p>西脇市の一番の弱点は交通である。私の事業所においても、交通の便の悪さから従業員を確保するのが難しい。市の良さをアピールするのはいいが、実際に住んで、都市部へ通勤できるかどうかの問題である。高齢化が進み、車を運転できなくなったときにどうするかという問題もある。</p> <p>二点目に、市内の産業が若者のUターンの受け皿になれるかどうかという問題である。現状では受入れができる体制ではなく、一度都市部に出てしまうと戻ってくるのは難しいため、若者を外に出さない方策を考える必要があるのではないかと。</p> <p>最後に、東京での西脇市の知名度はかなり低い。兵庫県内では豊岡市や洲本市よりも知名度が低いと感じる。首都圏で市をPRする方法もあると思うので、私自身も一緒に考えていきたい。</p>
委員	<p>市長の小中学生への特別授業の中で、生徒から市に対する提案もあったと聞いている。市長の授業のような取組を続けることで、地元回帰につながるのではないかとと思う。</p> <p>また、市内で米づくりに取り組んでいる酒蔵の社員と連携し、地元の小学生と一緒に田植えをやっている。親子で参加いただける方も多い。このような取組を通じて地元への愛着を育んでいきたい。</p>
委員	<p>基本目標1に係る数値目標の目標値について、「転出超過数」の目標値を150人とするのであれば、「市内定着者数」も150人に近い目標値を設定したほうがよかったのではないかとと思う。また、転出超過数241人のうち、転出者の年齢層は分かるのか。</p>
事務局	<p>15歳から39歳までの転出超過数を数値目標として設定し</p>

	<p>ている。個々の取組については成果が出ているが、東京一極集中の流れは変わっておらず、転出に歯止めがかかっていない状況である。今後も地道に取組を続けていくしかないと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>地元から若者を流出させない施策があってもいいのではないか。酒蔵が新設されると聞いたが、地元で雇用が生まれれば、地元で定着する人も増えるのではないかと思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>地場産業の衰退が人口流出の原因のひとつである。織布工場の経営者も高齢化が進み、5年先にはどうなっているか分からない状況である。新しい事業を始めるにしても、人材が確保できないという問題もある。外国人の受入れについても規制があり、十分に受け入れることができない。</p> <p>播州織の生地は「半製品」であり、なかなかブランド化するのが難しいため、それぞれの事業者が自社ブランドを立ち上げ、「製品」を作ろうとしている。市のファッション都市構想も来年度で5年目を迎え、若手デザイナー等の移住者も増えてきているが、結果を出していかなければならないと感じている。デザイナー育成支援事業の研修生たちがすぐに起業するというのは難しいと思うが、引き続き市と一緒に取り組んでいきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>「世界幸福度ランキング」というものがニュースになっていたが、日本は58位という結果であった。項目別では、「寛容さ」で92位となっていた。西脇市に移住した方の声を聞くと、まちの寛容さに魅力を感じている方が多い。このことを突き詰めていけば、まちの魅力がさらに高まるのではないか。</p>
	<p>○資料2、3に基づき、事務局から説明（基本目標2、3及び重点プロジェクト）</p> <p>2 地方創生関連交付金</p> <p>○資料4-1、4-2に基づき、事務局から説明</p> <p>3 その他</p> <p>○来年度の予定について、事務局から説明</p>
<p>事務局</p>	<p>来年度は総合戦略の計画期間の最終年度となり、改定の</p>

	<p>作業を進めていくこととなる。これまでの地方創生の取組の検証及び総合戦略の改訂に当たり、委員各位の御意見をいただくため、来年度中に3回程度会議を開催する予定である。委員各位には引き続き御協力をお願いする。</p> <p>(閉会)</p>
問合せ先	<p>西脇市都市経営部次世代創生課 TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>